

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 51 回部会）会議録

日 時：令和 6 年 9 月 12 日（木）午後 7 時 00 分～午後 8 時 45 分
場 所：東淀川区役所出張所 3 階多目的室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長挨拶
- 3 議題
 - ・ (1) 新大阪駅エリア・淡路駅エリアのまちづくりについて
 - ・ (2) 高架下活用事例について
 - ・ (3) 地域での活動報告及び意見交換
 - ・ (4) その他
 - ・ もと西淡路小学校跡地活用に係るマーケット・サウンディングの実施について
- 4 閉会

〈配付資料〉

- ・ 議事次第
- ・ 第 50 回「まちづくり通信」
- ・ 【資料 1－1】エリア計画の骨格について
- ・ 【資料 1－2】淡路駅エリア計画の骨格
- ・ 【資料 1－3】エリア計画（案）作成に向けた意見反映の進め方（案）
- ・ 【資料 1－4】第 7 回北陸新幹線事業推進調査に関する連絡会議資料
- ・ 【資料 1－5】新大阪駅周辺地域のプロモーションの取組
- ・ 【資料 1－6】新大阪駅エリアまちづくりのキャッチフレーズ募集要項
- ・ 【資料 2】 ご紹介した高架下活用事例について
- ・ 【資料 3－1】下新庄地域まちづくりワークショップ議事概要
- ・ 【資料 3－2】啓発地域町会ワークショップ 概要
- ・ 【資料 4】 もと西淡路小学校跡地活用にかかるマーケット・サウンディング説明会資料

1. 開会

2. 部会長あいさつ

（部会長）

- ・ 8 月 28 日に都市再生緊急整備協議会の傍聴に行ってきた。その翌日には北陸新幹線の駅についても案が出されたが、国や府・市のほか、地元の経済界も参加し、議論がなされた。国の動きと連動して、あわせて地域でも各地域の計画をしっかりと進めていきたい。
- ・ 今年 5 月には、賃貸住宅の入居を断られる高齢者や障害者などの住まいの確保につなげようと、大家が貸しやすい環境を整える、いわゆる「住宅セーフティネット法」の改正案が、衆議院本会議で可決・成立した。地域で居住支援を加速する動きにつながると思う。私たちのまちづくりのキャッチフレーズの一つは、「普段暮らしで住み続けられる」ことである。
- ・ 本日の議題の新大阪駅からつながる淡路駅エリアのまちづくりについても、ぜひ積極的なご議論をいただきたい。

3. 議題

（1）新大阪駅エリア・淡路駅エリアのまちづくりについて

(事務局)

- ・淡路駅エリアのまちづくりについて、大阪市計画調整局から説明する。

(計画調整局)

- ・淡路駅エリア計画の骨格（案）について、資料1-2のようなA3資料で作成しているが、8月28日の会議では資料1-1のようなスライド形式の資料で説明しており、本日も資料1-1をもとに説明する。
- ・資料1-1、P14以降に、淡路駅エリア計画の骨格について記載している。淡路駅エリアは、新幹線駅と近接性が高く、4つの鉄道駅が集積し各方面へのアクセスが可能で、広大な開発用地（柴島浄水場上系用地）を有するなどポテンシャルが高まっていく（資料1-1-P16）。まちづくりの大きなコンセプトとしては、「交流促進機能」「交通結節機能」「都市空間機能」を導入・集積して、拠点性の向上を図っていく（資料1-1-P18）。P20の国土交通省の資料にあるような、居心地が良く歩きたくなるまちなか、人が中心の空間をつくっていききたいと考えている。

(事務局)

- ・資料1-3のとおり、「淡路駅エリア計画」Ver1.0（案）に向けた意見反映の進め方については、11月14日・1月9日のまちづくり構想部会で意見交換や質疑応答を行い、3月13日のまちづくり協議会・部会で報告予定。幅広く地域から意見をいただくため、計画に関する説明を各地域で実施するなど、区役所が中心となりサポートする。各地域に応じて対応するので、進め方等、相談させてほしい。地域で取りまとめた意見は、アクションプランへ反映してほしい。

(質疑応答)

(久教授)

- ・本日の説明は、内容が専門的というより抽象度が高いと思う。例えば、歌島豊里線の沿道の整備にあわせて、民間の建物の更新を誘導し、まちなみを整えるために協力してもらうため、ガイドラインを策定するなどが考えられるが、市として、誘導しないのか。民間が勝手にやっていくのに任せるのか。

(計画調整局)

- ・柴島浄水場開発用地に新たな機能が導入されるため、そこからの波及効果により、土地利用の転換なども考えられる。

(久教授)

- ・例えば、1階には店舗を誘致し、歩道からのセットバックをお願いするなど、そういうのは用途地域ではできない。積極的な都市デザインの誘導が必要である。
- ・十数年前、御堂筋線沿いでは、市と一緒に地区計画や景観のガイドラインを定め、まちづくりのガイドラインも策定し、賛同した人が一緒にやっていく、何段階かのグラデーションをかけた誘導を行ってきた結果、現在のような賑わいや人の流れが生まれている。こうした形で落とし込まないと、資料1-1-P20のような「歩いてくらせるまち」にはならないだろう。どういう形で実現を目指していくのか。

(計画調整局)

- ・地区計画などは手法としてあるが、土地利用の規制にもなってしまう面もある。現時点で、開発用地以外について、規制するようなことは考えていない。手法の組み合わせは検討していきたい。

- ・資料1-1-P20は、開発用地内のイメージとしてお示ししている。まずは広大な開発用地（柴島浄水場上系用地）で民間敷地と一体として取り組んでいくことを考えている。

(久教授)

- ・歌島豊里線では何もしないのか？

(計画調整局)

- ・現時点では、デザインガイドラインまでは考えていなかった。必要であれば、今後検討していきたい。

(久教授)

- ・市の土地区画整理事業が終われば、市は去っていくので、まちづくりは地権者任せになってしまう。事業が終わってからも、どんなまちにしていくのかを一緒に考え、じっくりと長いまちづくりをやっていくのが良いのでは。事業だけではもったいない。

(計画調整局)

- ・今の時点でそのような誘導をしない、と決めているわけではない。まずは開発用地を中心に説明させて頂いた。地域の自主的なルールをつくって、コントロールしていくというそうした可能性もあると思う。

(久教授)

- ・市が、民間と一緒にやろうよ、という仕組みを作らないといけない。土地を持っている人が、これは私たちのまちづくりだ、いいまちにしていきたい、という気持ちになることが重要である。
- ・御堂筋では、1階部分のセットバックや店舗を入れる景観のガイドラインを作ったから、楽しい賑わいのあるまちなみを実現できた。ほおっておいたら、オフィスばかりで楽しい賑わいはなくなっていたらう。吹田市でも、「健都（北大阪健康医療都市）」のまちづくりで吹田駅までつなげてくれた。

(計画調整局)

- ・今回のエリア計画に落とし込めるほどの熟度は難しいだろうが、今後の検討課題としていきたい。

(部会長)

- ・資料1-1-P20のような「歩いてくらせるまち」のイメージは素晴らしいが、現在と大きく変えていこうとしているプランである、と受け止めていいか。新大阪で降りた人たちを、梅田や天神橋筋商店街、天六あたりだけでなく、淡路にも誘導しようと考えているのか。

(計画調整局)

- ・具体の機能まで決められていないが、現状の土地利用からは大きく変わる。このエリアに人を誘導していきたい。

(部会長)

- ・前回の会議で、年度末にエリア計画をまとめる、と聞いていたので、それまでに地域としては意見を伝えないといけないと思うが、PTAや学校でも説明するとか、区役所では、地域住民から意見を聞く仕組みを具体的に何か検討されているのか。

(部会員)

- ・うちの地域にも来てもらって、一人でも多くの方から意見を集めたいと思っている。まずは10月に役員などで話し合い、年内には区役所にも来てもらって、多くの人から意見を聞きたい。

(部会員)

- ・10月にコンサルに入ってもらって、アクションプランのたたき台（ロードマップ）を作っていきたい。うちの地域をどうしたい、こんなまちにしたい、といったことは考えてきたが、他のエリアを含め、全体の課題として淡路エリア計画のことを意識していなかったなので、多様な視点で考えていきたい。

(部会長)

- ・8月28日の都市再生緊急整備協議会でも、地元の経済界からも現場や地域の声をしっかり聴いてほしいという意見が多く出ていた。特に、阪急から西へ、新大阪から人を呼び込む工夫が必要。高架下の利活用については、以前から下新庄駅で地域の皆さんで検討されている。今日の説明だと、柴島駅や崇禅寺駅にスポットが当たっているように感じる。地域への説明や意見聴取には、より一層の工夫を求める。

(部会員)

- ・先日、防災と防犯に関するワークショップを開催した。避難場所を阪急の高架下で作ってほしいという意見が多く出た。現在100歳体操をしているのは保育所、カレーの日はここ、と地域のあちこちで開催している地域活動をすべて駅の近くでできるような、普段から多目的な利用ができる会館を求めている。これは、平松市長の時代から市へ要望していることだと、歴代会長から伝えられてきている。下新庄駅のあたりは、店舗よりも地域住民の居場所のような機能がメインになるのでは。交番も設置してほしいと思っているが、これは難しそうなので、地域住民の皆が多目的に使える会館を切に願っている。

(久教授)

- ・資料1-1-P19左側の「交流促進機能」の例に記載されている「スタートアップ」は、どのあたりに誘致する予定か。

(計画調整局)

- ・具体的にはまだ決まっていないが、新大阪駅周辺の3つのエリアのいずれかにそのような機能の導入を図りたい。

(久教授)

- ・不動産の市場動向から考えれば、家賃が安いところ、つまりこのあたりの地域が候補になるだろう。スタートアップの受け皿となる空間を、土地の所有者に作ってもらい、そうした実現性の高い計画づくりを進めてほしい。
- ・JRおおさか東線が開通し、JR淡路駅ができたが、単に大阪・梅田へのアクセスというのではなく、グランフロント大阪の玄関口につながっている、と考えれば、もっと面白い発想が出てくるのではないか。

(事務局)

- ・資料1-4のとおり、北陸新幹線の新大阪駅は、歌島豊里線の地下トンネルを通して、現在の新大阪駅の地下につながる予定。最短で令和8年3月に事業認可、事業期間は新大阪駅周辺で概ね25年程度、2026年から2051年になる見込み。
- ・資料1-5は、新大阪駅周辺地域のプロモーションの取り組みに関する内容。東海道新幹線開業60周年、山陽新幹線開業50周年を迎える機会にあわせて、区でも連携しており、区民まつりでブースが出展される予定。1月には大阪市立青少年センターでシンポジウムが開催される予定。
- ・新大阪駅エリアまちづくりのキャッチフレーズを募集している（資料1-6）。

(部会長)

- ・新大阪駅周辺の動きは、あまりニュースになっていないように感じる。多くの民間企業を呼び込んでいきたい。

(2) 高架下活用事例について

- ・コンサルタントから、高架下の活用事例について、説明があった。

(3) 地域での活動報告及び意見交換

(部会員)

- ・高架下の利活用を考える際に、電車の線路跡地はどうなるのか？一体的に活用できるのか？

(事務局)

- ・基本的には側道になると思われる。阪急淡路駅の駅前、区画整理事業により、区画ができることになる。

(部会員)

- ・「淡路駅エリア計画」案について、地域の特性を生かしてプランを作ってもらわなければ。少し離れた地域に、この案のまま持っていても、地域住民から意見は出てきにくいと思う。

【下新庄地域】

(事務局)

- ・資料3-1のとおり、先週9月5日に下新庄地域で2回目のワークショップが開催された。

(部会員)

- ・資料3-1のとおり、防災と防犯に関するワークショップを開催した。区役所の職員から、防災と防犯についての説明を受けた。下新庄地域では、津波の被害想定は無いが、3m位までの水害のリスクはある。「避難」とは、単純に近くの小学校などに避難することではなく、被害の状況にあわせて命や身を守るために安全な場所に避難することだと改めて確認することができた。例えば、うちの小学校は海拔2.1m、我が家は4.7mなので、水害に対しては自宅の2階へ上がるほうがよい、ということになる。
- ・お一人暮らしの高齢者など、個人情報との関係もあって、なかなか地域では把握できていない。高齢者の避難や連絡方法など、今後のワークショップで「こども」「高齢者」などをテーマにしているので、引き続き検討していきたい。

【啓発地域】

(事務局)

- ・資料3-2のとおり、9月4日に、啓発地域の町会長、町会員、区役所の関係者などが集まって、啓発社会福祉会館でワークショップが開催された。
- ・この集まりは、月1回のペースで開催予定だそうで、今後も可能であれば部会員の石塚さん、床田さんと、コンサルタントの参加を提案し、了解いただいた。

(部会員)

- ・いろいろな意見が出たり、うだうだ話をしていることもあるが、回を重ねるごとに、少しずつ課題の共有や情報・アイデアが集まってきていて、アクションプランのヒントがあるように思う。ワークショップがだんだん楽しくなってきた。

(部会長)

- ・たわいもない話から、びっくりするような気づきを得たり、話が広がっていった大きな話につながることもある。

(部会員)

- ・下新庄地域のワークショップで、毎回テーマを決めているようですが、テーマにあわせて参加者も変えているのか。

(部会員)

- ・まちの主要な団体のリーダーや活動をされている人達が集まっているので、ほぼ同じ。

(久教授)

- ・「ワークショップが楽しい」のは、良い。最近、私はワークショップという名称ではなく、「まちづくり井戸端会議」でいいんじゃないかと思っている。なんでも話せるような気軽な集まりで、話が弾まなければ30分で終わってもいい。北千里では、月1回の集まりを20年以上合計250回以上も開催している。啓発地域のワークショップも、これからも続けて行くとよいのでは。

4. その他

(事務局)

- ・資料4は、「もと西淡路小学校跡地活用に係るマーケット・サウンディング」の説明会の資料。これから事業者からの提案書の受付や、提案者との対話などが進められ、12月末に実施結果が公表される予定。

(部会長)

- ・市の教育委員会では、今後も学校の統廃合を進めていく方針で、ニュースにもなっていた。
- ・特筆すべきは、7ページの前提条件。当初は売却予定だったが、事業用定期借地に変更された。さらに、地域の防災拠点機能や選挙時の投票所としての利用、地域全体の活動拠点の確保など、8～9ページの必須条件をつけることができた。10ページには「積極的に求める提案」として、これまでの地域の活動を活かすことも記載されている。
- ・12haもの広大な広さの柴島浄水場跡地活用の参考になるかと思う。

5. 閉会

- ・次回の部会は、11月14日（木）午後7時から、東淀川区役所出張所3階多目的室で開催予定。

以上